

公民館の図書室は 学びの入口・みんなの本棚

国立市中 1-15-1

TEL.042-572-5141

FAX.042-573-0480

国立市公民館

図書室月報

2022年(令和4年)4月5日

第707号



公民館図書室には約二万五千冊余りの蔵書があり、「市民の本棚」として利用していただけるよう運営しています。公民館図書室は一人でも気軽に利用できる場所です。新聞の閲覧や、本・雑誌を借りることが出来ます。公民館では市民の皆さんが参加できる講座や催し物を行っており、そのテーマ・内容に関連した本を優先してそろえています。このように、公民館主催の講座や市民の学びと密接に結びついて運営していることが、公民館図書室独自の特徴です。

図書室をご利用ください

市民の本棚として公民館活動の資料室として

■ 図書室月報の発行
 ご覧になっているこの「図書室月報」は、公民館図書室の利用者や講座参加者に原稿を寄せていただき、掲載しています。一ページ目は「図書室のつどい」等の講座参加者の感想や、読んだ本の感想を載せています。最終ページの「私の本棚から」は、お一人に六回連続で、興味を持った本などについて、感想や紹介を書いてもらっています。
 紙面を通しての交流や学び合いの場となるよう毎月発行しています。

■ 図書室のつどい
 毎月一回開催しています。文学・社会科学・自然科学・時事問題等、さまざまなテーマの本をとりあげ、著者に来ていただきお話を聞く催しです。
 著者の話を直接聞くことでそのテーマ・課題への関心や理解がより一層深まります。

■ くにたちブッククラブ
 年間のテーマを設け、日本文学から八作品を選び、参加者の読みの発表と講師の講義です。める読書会です。
 二〇二二年度は「感傷から遠く離れて」というテーマで開催します。今号三ページ目に年間の予定を載せています。

■ 市民グループの発行物・ミニコミ収集
 市内で活動するグループや団体が発行しているチラシ・冊子等のミニコミ誌を収集して、閲覧できるようにしています。市民活動を集積・記録し、共有するという公民館図書室の役割として行っています。
 グループ活動で発行・出版したものがありましたら、ぜひ図書室に寄贈いただければと思います。

公民館図書室の本や雑誌を借りたいときは？

くにたち電子図書館

国立市に在住・在勤・在学の方で、図書カードをお持ちの方は、パソコン・スマートフォン・タブレットなどから利用できます。

本や雑誌を借りるためには、

『くにたち図書利用カード』が必要になります。

- ◇国立市に在住・在勤・在学の方、国分寺、府中、立川、日野の市民の方は本を借りることができます。
- ◇くにたち図書館のカードをお持ちの方は、そのままお使いください。
- ◇カードをお持ちでない方は、新たに登録をする必要があります。住所が確認できる健康保険証、運転免許証などをお持ちください。
- ◇カードは5年ごとに更新が必要です。

詳しくはお問合せください。

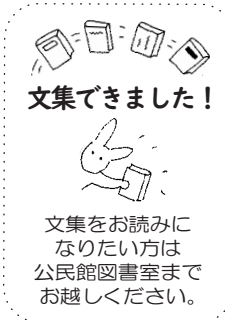


ブッククラブから

今年度を振り返って

岩井としえ (文学講座連絡会編集委員会)

二〇二一年度ぐにたちブッククラブの文集は、講座参加者の感想を中心にまとめられています。ここでは岩井としえさんが書いてくださった「あながき」の文章を紹介します。



今回、私は、一回ごとに「人生、野を越え山越えて」と読んできたように感じています。はじめてこの講座に出席したのは1989年9月の『ロンリーウーマン』。きつい悪阻からやっとなげ出し、楽しみにしていた安定期。今、出かけておこなうては！と都心の映画館によく行っていました。大井さんのリストのおかげで、この講座にも、出席していたのが確認できて、感謝です。ただ覚えていたのは、山崎先生の「母性の否定」強烈でした。(この小説、取り上げられたの2回目。1978年11月)その後、2009年から時々出て、数年前から、毎回出席を目標に通っています。今年度の小説が、今までに比べて、良質の、中身の濃い深いものが選ばれていたからか？そういうわけではありません。振り返って、1冊ごとに事前に読み、当日、参加者の発言を聞くことで、ひとりでは気づかなかった読みを味わい、講師の解説で更に広がり、後日、参加者の感想で、新たな思いで膨らむという、1冊で4回楽しむという、基本をきちんとやったからだと思います。一人で読んで、納得いかず、珍しく評論まで読んで出席した『山の音』女性の参加者何人か、違和感覚えたようでした。講師の解説で、苦手意識がだいぶ落ちました。主人公の身内に対して、美人でないから深い愛情を持ってない、ということに過剰反応していましたが、図書室月報に載った参加者の文章の中で「とんでもない妄想をする異常さを見せることになる。」というのを読んで、なんと冷静な大人の読み方だろう、あの主人公を、見守るように読み取っているようだ、と思いました。この経験は、「人生、野を越え山越えて」そのものです。こんなのを、他の7冊分やった感があります。通りいっぺんの読み方で終わらせたくない、折角の機会、大切にしたい気持ちで臨んだのは、残された時間があと僅かで、また気づけばここで出会った方々が、いらっ

しやらなくなったと実感したからです。前からいる人になってしまった！です。「1冊ごとの出会い大切に」の思い、沁みています。

今年度が最後となってしまった紅野先生、お世話になりました。我が儘な参加者と、メニューを決めるのに、ユーモアを持って、接してくださいました。金井先生の「推し」のおかげで、津村記久子を読む機会を得ました(2012年1月『ポストスライムの舟』2018年1月『君は永遠にそいつらより若い』。参加者の誰も思いつかなかった作家ですが、就職氷河期以降の学生の身近にいらした先生が、上の世代も知ってほしいとのことでした。2冊とも、金井先生の「推し」です。音読された金井先生の柔らかな関西弁、TV等で聞く、キツイ大阪弁に慣れた耳に、関西弁一色ではなく、多様だということを知る機会を得ました。私のささやかな知識の財産となっています。お一人に感謝します。

今まで、書くのが苦手で、逃げていましたが、参加者が書かれた感想を読むことで「読み」が広がることを、その都度実感してきたので、もっと、もっと多くの参加者に書いてほしいと思います。書けない、とおっしゃる方、模範的感想あるいは、優等生みたいに書きたいと思いませんか？失礼ながら、そんなの読みたくない、その方しか読めないような個人的読みを知りたいと思います。もっと気楽に書きましょう。共感しなくていい、共感することが読むことか？と、ある評論家の本で読みました。ダラダラして、込み入っていて、読みにくかった、との声もありますが、作家はプロです、そこをなぜかと探っていくことが、小説を読むことです、と別の文学講座の講師が語っていました。もう一つこの講座の榎本先生は、(世に出た)小説は完成品です。終わりの章いらなかった、もっとここ詳しく書かれていたら……でも完成品はいじれません。記憶に残るプロのアドバイスです。

この参加者のアドバイス、2015年のあながきから、最近「どうも、下世話な内容の小説は苦手」とおっしゃる武内さんの文章、未読の方、いらっしやると思いますので、引用したいと思います。

「文学作品というのは、幅も奥行も実に広く多彩で、茫漠として捉えがたい面もありますが、『人間を描く』というのが本質である以上、その美しい面も醜い面も、高貴も悲惨も優雅も汚濁も、総てがその対象になります。また人間自体がどの時代や地域でも基本的に変わらない存在ですから、その本質にせまるものであれば、ほとんど何でも取り上げるべき対象になる、と言えます。その意味では、文学は高尚にしてかついかわしい面を含む、と言えるのかもしれない。」

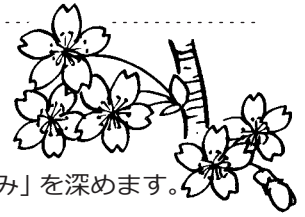
これらをどこかに入れて、次年度に期待しましょう。





〈くにたちブッククラブ〉

感傷から遠く離れて



この講座では、参加者それぞれの作品を読んだ感想や講師のお話を聞いて「読み」を深めます。

自分とは違う背景をもった人の意見や感想はとても新鮮で、

自分の考えや知識だけでは得られない新たな視点を獲得できるはずですよ。

今年度のブッククラブでは、「感傷」に抗うこと^{あらが}、について考えてみたくなる作品が揃いました。

どなたでも気軽に参加してみてください。

と き と ころ 申 込 先	月 日	作 品	講 師
夜7時半～9時半 公民館 地下ホール 定員 30名 4月14日(木)朝9時 公民館 ☎(572) 5141	1/12 (木)	松田青子 『女が死ぬ』 (中公文庫)	小平 麻衣子 (慶應義塾大学・日本近代文学)
	※12月(木)	福永武彦 『草の花』 (新潮文庫)	大野 亮司 (亜細亜大学・日本近代文学)
	※11月(木)	奥泉光 『東京自叙伝』 (集英社文庫)	佐藤 泉 (青山学院大学・日本近代文学)
	10/13 (木)	田中康夫 『33年後のなんとなく、クリスタル』 (河出文庫)	深津 謙一郎 (共立女子大学・日本近代文学)
	9/8 (木)	宇佐見りん 『かか』 (河出文庫)	内藤 千珠子 (大妻女子大学・近現代日本語文学)
	7/14 (木)	水上勉 『雁の寺』 (新潮文庫)	大木 志門 (東海大学・日本近代文学)
	6/9 (木)	金原ひとみ 『持たざる者』 (集英社文庫)	榎本 正樹 (文芸評論家・現代日本文学)
	5/12 (木)	井上荒野 『あちらにいる鬼』 (朝日文庫)	山岸 郁子 (日本大学・日本近代文学)

※11月・12月は
市民文化祭の日になり
決定次第お知らせします。

新着図書から

〈総記〉	私が本からもらったもの	駒井稔・編著(書肆侃侃房)	019
〈哲学・心理学・宗教〉	言葉を失ったあとで	信田さよ子(筑摩書房)	161
	人間と宗教あるいは日本人の心の基軸	寺島実郎(岩波書店)	146
〈歴史〉	奄美・喜界島の沖繩戦	大倉忠夫(高文研)	219
	紙に描いた「日の丸」	加藤圭木(岩波書店)	221
〈社会科学〉	エジプトの空の下	飯山陽(晶文社)	302
	核兵器禁止から廃絶へ	川崎哲(岩波書店)	319
	なぜ、イスラームと衝突し続けるのか	内藤正典(明石書店)	319
	夫婦別姓	栗田路子(筑摩書房)	324
〈産業〉	虚構の森	田中淳夫(新泉社)	650
〈芸術〉	旅する小舟	ペーター・ヴァン・デン(求龍堂)	726
	志村ふくみ染めと織り	志村ふくみ(求龍堂)	753
〈文学〉	デカメロン・プロジェクト		
	ニューヨーク・タイムズ・マガジン・編(河出書房新社)		908
	パララレレル	最果タヒ(河出書房新社)	913
	アスペクトス	佐伯一麦(文藝春秋)	913
	風の里から	櫻井和代(本の泉社)	913
	現代生活独習ノート	津村記久子(講談社)	917
	枯れてこそ美しく	戸田奈津子(集英社)	917
	だんまり、つぶやき、語り	鷺田清一(講談社)	917
	水上勉	藤井淑禎(名古屋大学出版会)	917
	トーベ・ヤンソン人生、芸術、言葉		
	ボエル・ヴェステイン・著(フィルムアート社)		94

図書室のしごと

『海獣学者、クジラを解剖する。』

講師 田島 木綿子 (国立科学博物館 研究主幹)

みなさんは、クジラやイルカなど海の哺乳類が浅瀬で座礁したり、海岸に打ち上げられる現象を知っていますか？これを「ストランディング (stranding=漂着、座礁)」と呼びます。

著者の田島さんは、この打ち上げられた海の哺乳類の死体を解剖し、死因やストランディングの経緯を究明しています。どうしてこのクジラは打ち上がり、死んでしまったのか。その答えを見つけるために、一つ一つの死体から聞こえる声に耳を澄ませます。

陸の哺乳類と比べて調査自体が難しく、実は未だに謎の多い海の哺乳類。今回は、そんな海の哺乳類の生態や魅力、ストランディングの謎、そして私たちの生活との関わりについて田島さんにお話しいただきます。

〈田島さんの本〉

表題作 (山と溪谷社)、山田格との共著で

『海棲哺乳類大全…彼らの体と生き方に迫る』(緑書房)

とき 5月29日(日) 昼2時〜4時

ところ 公民館 地下ホール

定員 会場受講40名(申込先着順)

申込先 4月28日(木)朝9時〜

公民館 ☎(572)5141

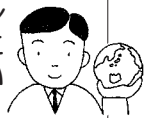


〈私の本棚から 第1回〉

服部雄一郎・服部麻子著

『サステイナブルに暮らしたい』

―地球とつながる自由な生き方―



上原真弓

昨年コロナで引きこもり生活の中、テレビや雑誌では盛んにSDGsを盛り上げようと特集を組み、環境にやさしい商品の提案などがされてきました。SDGsとは、2015年に国連で採択された「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略。目標は17個あり、皆で取り組んでいく必要があることは重々承知。ですが、なんだか私には難しい気がするし、第一面倒臭い。それに、最近はずアツションのように環境に良いことを「身にまとう」人たちに少し嫌気がさしてきていました。この本とはそんな時に出会ったのです。

まず目に入る表紙の写真は、おしゃれなワンピースのトップは？寄せ植え？いえいえ、これは服部家のゴミの写真です。ゴミの写真なのに、なぜか美しい！本の中には他にも生活そのままの写真が、ページいっぱい広がっています。高知での力強い服部家の写真たちを見ていただけで溢れるエネルギーに圧倒されます。

著者である服部さんご夫婦はもともと都内で仕事をされており、「グルメガイド片手に外食三昧、舞台三昧。気に入った洋服ブランドでシーズンごとに服を買い足すそんな生活を送ら

れていました。お子さんが生まれたのをきっかけに神奈川県葉山町に転居、ご主人の雄一郎さんが町役場へ転職してごみの部署に配属されたことが、人生を変える転機となったそうです。雄一郎さんはその後2016年に『ゼロ・ウェイストホーム』、続いて『プラスチック・フリー生活』などの本を訳され、メディアがサステイナブルを取り上げる前から自身の生活に取り入れていらつしました。

文章は、堅苦しくなく自然体そのもの。隣で語りかけてくださっているようで、押し付けるようなことがなくスツと心に入ってきます。飾らない人柄が本当に魅力的です。環境に良いことをしたいけれど、何からしたらよい？と思っている人へも、それぞれの章の終わりに「変化のための小さなアクション」があるので一歩が踏み出せます。そのアクションは、もちろん私のように「環境に良いこと」の押し付けに疲れてしまった方にも！笑

しかし、ただ「環境に良い」それだけでなく、サステイナブルな生活はそれ自身が心地よく、そして何より美しい。そんな原点に立ち返らせてくれる一冊です。(アノニマ・スタジオ)

係から

今月から上原さんの「私の本棚から」が始まります。次回もお楽しみください。4月は、通年の講座参加者の募集が始まります。ぜひ「公民館だより」でご確認ください。また、図書室では講座参考図書がご覧いただけます。

